

これも今は昔、絵仏師良秀といふ

ありけり。家の隣より、火出でて来て

風おしおほひて、せめければ

逃げ出でて、大路出でにけり。

あり。】

(※終止形が「 」じゃないことに注意)

風おしおほひて、せめければ

】↓

】

已然形「ば

【
【
【
【
【
【

人の書かする仏もおはしけり。また

衣着ぬ妻子なども、さながら内に

ありけり。それも知らず、ただ

逃げ出でたるを、ことにして

向かひのつらに立てり。

人の書かする

】↓

】

おはす…】

】

見れば 既に我が家に移りて 煙

炎くゆりけるまで おほかた

向かひのつらに立ちて眺めければ

「あさましき」として 人ども

来とぶらひけれど 騒がず。

あさましき。【

←「あさましき」

【

あさましき。【

⇔

】

「いかに」と人言ひければ 向かひ

に立ちて 家の焼くるを見て

うちうなづきて 時々笑ひけり。

いかに。【

「いかに」

⇔

】

◎良秀の不可解な行動

【

Q. なぜ 良秀はこんな行動を

しているのか？

「あはね じつるせうとくかな

年ごろは わろく書きけるもの

かな」と言ふとき

年ごろ 【

月ごろ 【

日ごろ 【

よご 【

<

よろご 【

<

わろじ 【

<

あじ 【

わろく書きけるものかな

⇐ 【

とぶらひに來たる者ども

「はいかに かくては立ちたまるぞ

あさましき」とかな

物のつきたまるか。」と言ひければ

★力変は漢字一字の時注意！

「き くくるくね」よ

⇐ 【

あさましき」とかな

物 【

】

】

「なんでぶ 物のつくへきぞ。年としろ

不動尊の火炎を悪しく書きけるなり

今見れば かうこそ燃えけれと

心得こころえるなり。これこそ せうとくよ

なんでぶ…】

★上一段活用

この道を立てて世にあらんには

仏だによく書き奉らば 百千の家も

出で来なん、わ党たちこそ

させる能もおはせねば

物をも惜しみたまへ。」

だに…】

奉る…】

未然形+「ば…】

おはす…】

★ア行の動詞

と言ひて、あざ笑ひてこそ立てりけれ

その後、や、良秀がよぢり不動とて

今に、人々めで合ひ。

あざ笑ひて

めぢ。【 】

その後、や、めで合ひ